

APLA

あいち防災リーダー会

10年間の歩み



平成24年度防災担当大臣表彰式（10頁記事掲載）



「10年間の歩み」目次

1. あいち防災リーダー会10年を振り返って 2代目会長 早川 澄男
2. あいち防災リーダー会10周年をふりかえり 初代 会長 太田 貴代子
3. APLA10周年に思う事 研修 部長 原田 先夫
4. 役員歴
5. あいち防災リーダー会の構成内容と会員数の推移
6. 愛知県防災局とのあいち防災リーダー会との防災啓発に関する覚書調印
7. 平成24年度防災担当大臣表彰
8. 平成25年度愛知ボランティア活動功労者表彰
9. 活動の一部紹介
10. 一泊研修の旅
- .
— 編集後記 —

(1) あいち防災リーダー会 10年を振り返って

平成14年から開講された愛知県防災局主催「あいち防災カレッジ」の1期生の方々の防災・減災に掛ける熱い思いを、共に連携して活動を継続しようと結成いただいた「あいち防災リーダー会」も12年目を迎えました。



太田貴代子会長等は、1年目140名の会員からスタートし、発足から基盤づくりをしておいて活動で700名を超える仲間の会員まで強化していただきました。その後2代目をお引き受けし、700名程の会員を保ちながら、本部体制から、地域防災力向上のための地域体制の活動強化を進めてまいりました。

発生が懸念される南海トラフの巨大地震や伊勢湾台風並みの台風等の大規模災害に備え、愛知県民の防災意識を高め、地域防災力向上に関して継続的な活動を連携して推進するため、愛知県防災局とあいち防災リーダー会は、防災啓発に関して覚書を平成24年6月締結しました。

また、地域防災力向上のために地道で且つ継続的な活動に対して24年9月には、防災担当大臣賞を受賞し、平成25年8月には、愛知県ボランティア活動功労者表彰も受賞しました。



この期に10年間の歩みとして[10周年特集号]と整理してみましたので、ご一読いただければ幸いです。これからも継続的に地域防災力向上のための活動を致してゆきましよう。

平成26年4月吉日
あいち防災リーダー会2代目会長
早川 澄男



タイ国防災啓発と防災ナマズンの紹介を自ら



楽しく学ぶ防災



お金をかけずにできる家具の固定から

*** 防災減災活動への熱い思い・・・気づかせ・自発的に備えてほしいと願って**

(2) あいち防災リーダー10周年をふりかえり

初代会長 太田貴代子

早いもので、あいち防災リーダー会が設立して10周年が過ぎています。

平成14年に愛知県主催の防災カレッジが開講され、12日間という長丁場に他の予定を外しせつせとウイルあいちへ向かった、会場は250名の受講者で、身動きも出来ないぐらいのぎっしりの中、よく頑張って受講したという思い出です、終盤松田担当者から、「お楽しみ会の様な会を作りましょう」との声に各地域から自主的な手を挙げ集まり、お楽しみ会の予定が一変して防災リーダー会の設立に向けて動き出してきました。

平成15年6月22日、ウイルあいちで設立総会を開催し、名古屋大学大学院福和伸夫教授にリーダー会の参与をお願いしました、APLA 通信の「よもやま話」への寄稿が始まりました。

APLA 通信のロゴにはNPO 愛知ネットの岡坂さんの協力で東浦町の磯村さんたちと幾度か会議をする中で出来上がりました



名古屋大学にて委嘱状の伝達



愛知県神田知事への表敬訪問

平成15年10月3日

APLA

Aichi	「あいち」
Preparation	「用意する」準備する
Leader	「リーダー」
Association	「組織」



この会談の議事録がありました

神田知事を囲んで、各部ブロック代表者

防災啓発用大幕作成・防災カード作成の支援

岡崎商工会議所会頭が中心に企業人、医師会、民間で設立の「特定非営利活動法人 21世紀を創る会・みかわ」から防災活動に必要な資金援助を受け防災啓発活動を展開してきました。

啓
発
用
幕



世界の地震発生地帯



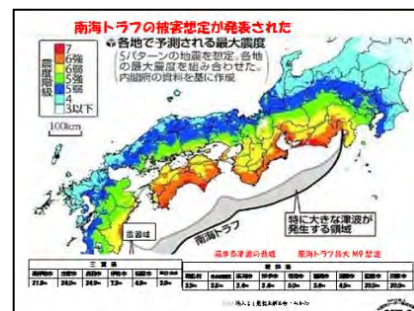
自主防災会の活動

防災カード
自分の命は自分で守る



南海トラフ巨大地震に向けて

あいち防災リーダー会は自主防災組織の活性化をより広く周知を、災害時には被害が最小限度になるように県民に対して粘り強く、減災活動が続ける活動を推し進めてほしいと願っております。



南海トラフの被害想定

(3) APLA 10周年に思う事

研修部長（東尾張ブロック） 原田先夫



平成15年あいち防災リーダー会を発足し、今後愛知県防災カレッジ修了生を会員として入会、組織づくり、計画を考えたと聞いております、又ブロックについても5地区で（尾張・名古屋・西三河・東三河・知多）進めていたようですが、愛知県よりできれば県土木事務所（海部・尾張・名古屋・西三河・東三河・知多）6地区で・・・決定したようです。

私達尾張ブロックは15年度生44名入会し14年度生共76名となり（会員171名）会員数最大地区となりました。今後如何に会員を多くしていくかを考え協議した様な気がします。APLA通信も16年度5月より2カ月に1回発刊すると決定しました。発送は各ブロック予算も無く手渡しが多く役員担当者も大変だったと思います。

17年度本部会計をまかせていただきました、会費は各ブロックごとに集計しブロック長がまとめて本部会計に手渡しで納入する事になっていました。全会員納入までにかかなりの時間が必要でしたので振込納入に変更しましたが、会費の金額に対して振込料が高いと会員より意見が多く未納の会員については、各家を廻って集金しました。18年より尾張ブロック長の時他のブロック長との本部役員会で、今後いかに会員増強をするかを相談、各地区役員の方が修了生に直接会って入会を進めていただき急激に会員が多くなってきたようです。

私の尾張ブロックも18年度ブロック長の時期には263名となり尾張地区の把握が難しくなり、18年度総会にて尾張ブロックを東尾張、西尾張に分ける提案をさせていただき賛成多数で7ブロックに決定（海部・西尾張・東尾張・名古屋・西三河・東三河・知多）しました。それ以後21年度まで続きましたが22年度に西三河、東三河が合併し6ブロックになり現在に至っています。

今後とも会員の皆様方と努力し今以上にリーダー会を盛り上げたいと思います。リーダー会の10周年おめでとうございます。

第10期定期総会



来賓の方々

25年度役員



(4) あいち防災リーダー会 本部役員表 (年度別)

		1	2	3	4	5	6
年度		15	16	17	18	19	20
会長	—	太田貴代子	太田貴代子	太田貴代子	太田貴代子	太田貴代子	早川 澄男
副会長	名古屋	増田 武	増田 武	増田 武	早川 澄男	早川 澄男	早川 澄男
〃	東尾張	岩崎 政弘	岩崎 政弘	岩崎 政弘	原田 先夫	原田 先夫	加藤千恵子
〃	西尾張		高木 浩則	高木 浩則	高木 浩則	倉知 彰治	倉知 彰治
〃	海 部					福田 学	福田 学
〃	知 多	保坂 松男	保坂 松男	保坂 松男	保坂 松男	保坂 松男	保坂 松男
〃	西三河	岡本 明	岡本 明	太田貴代子	太田貴代子	太田貴代子	太田貴代子
〃	東三河	畑中信一	大久保育夫	大久保育夫	伊藤 尚志	伊藤 尚志	大久保育夫
事務局長		山本悦治	蜂須賀博英	廣江 好矩	板垣 貴彦	伊藤 善之	伊藤 善之
次長		—	村島 忠彦				
次長		—	伊藤 芳枝				
広報部		—	佐々木利哉	佐々木利哉	百合草五男	百合草五男	百合草五男
副		—	伊藤 千恵				
副		—	間瀬トシ子				
研修部		—	秋本 制也	早川 澄男	蜂須賀博英	稲垣 繁輝	稲垣 繁輝
副		—	早川 澄男				
副		—	東嶋とも子				
会計		東嶋とも子	河津 英美	原田 先夫	加藤千恵子	浜辺 文	浜辺 文
		—	竹内 宏之				
会計監査		遠藤 正喜	大矢 利雄	岡本 明	横井 宏洋	増田 武	尾関 博
		廣江 好矩	倉知 彰治	杉浦美智子	天野 泰次	吉田 日勝	横井 宏洋

期		7	8	9	10	11	12
年度		21	22	23	24	25	26
会長	—	早川 澄男	早川 澄男	早川 澄男	早川 澄男	早川 澄男	
副会長	名古屋	早川 澄男	早川 澄男	早川 澄男	早川 澄男	田中 由幸	
〃	尾張(東)	加藤千恵子	加藤 英史	青木 八束	青木 八束	青木 八束	
〃	西尾張	伊藤 善之	伊藤 善之	伊藤 善之	伊藤 善之	尾関 博	
〃	海 部	福田 学	福田 学	七條 紀雄	七條 紀雄	七條 紀雄	
〃	知 多	伊藤 彰	岸野 靖彦	岸野 靖彦	岸野 靖彦	櫻井 衛	
〃	西三河	中根 輝彦	中根 輝彦	中根 輝彦	中根 輝彦	蜂須賀博英	
〃	東三河	大久保育夫	—	—	—		
事務局長		青木 八束	青木 八束	河村 文雄	河村 文雄	丸山 豊	
広報部		田中 由幸	田中由幸	藤井 芳宏	藤井 芳宏	藤井 芳宏	
研修部		尾関 博	竹山 金伍	竹山 金伍	竹山 金伍	原田先夫	
会計		浜辺 文	安田 裕典	安田 裕典	安田 裕典	安田 裕典	
会計監査		櫻井 衛	村上 宏子	森 千代子	神谷 芳美	村上宏子	
〃		天野 優子	藤野 昌之	三輪 勤子	内藤 尚仁	藤野昌之	

(5) あいち防災リーダー会の構成内容

と会員推移

(1) ブロック別防災カレッジ(H14～H19 年度)＋H20 モデルカリキュラム受講生修了生の割合

H23 年度	名古屋	東尾張	西尾張	海部	知多	西三河	東三河		
会員登録数	58	102	157	103	167	50	6		643
カレッジ修了者数	24	75	100	57	103	34	0		393
割合 (%)	41	74%	64%	55	62	68%	0		61

(2) メーリング登録数

H23 年度	名古屋	東尾張	西尾張	海部	知多	西三河	東三河	養成塾	
会員数	44	91	134	103	167	59	6		604
登録数	38	44	60	63	107	30	1		301

(3) リーダー養成塾生入会後の総会員数

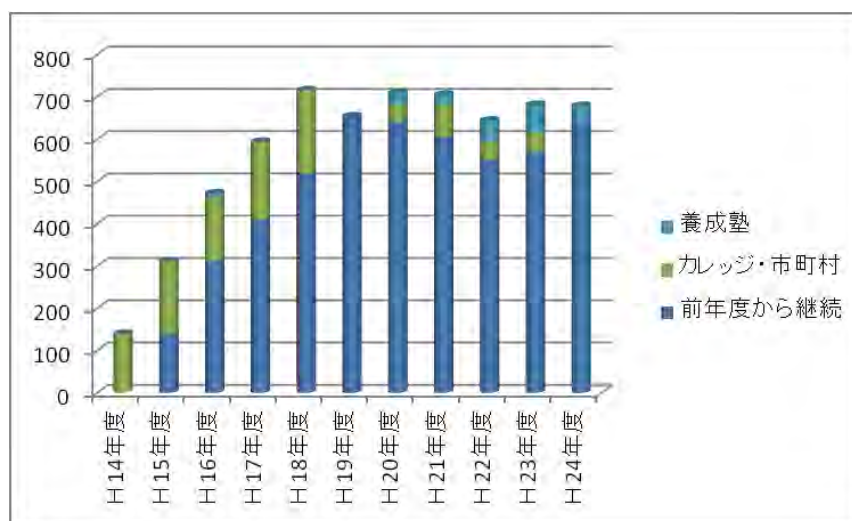
平成 25 年 3 月現在

会員数	46	93	155	110	180	56		39	679
-----	----	----	-----	-----	-----	----	--	----	-----

(4) 会員数の推移

総会会計資料から

	前年度から継続	カレッジ・市町村	養成塾	総会員数
H14 年度	0	140	0	140
H15 年度	140	171	0	311
H16 年度	311	150	11	472
H17 年度	409	185	0	594
H18 年度	519	197	0	716
H19 年度	654		0	654
H20 年度	641	42	26	709
H21 年度	605	78	22	705
H22 年度	552	44	48	644
H23 年度	570	47	64	681
H24 年度	640		39	679
合計		1054	210	



(6) 愛知県防災局とあいち防災リーダー会との覚書調印式と意見交換

平成24年6月7日 15:30～16:40

愛知県防災局長室

出席者

愛知県防災局 小林防災局長、樋口防災局次長、夏目防災危機管理課長、宇佐見主幹、

福永主任主査、高柳氏

あいち防災リーダー会 早川澄男、伊藤善之、青木八束、七條紀雄、岸野靖彦、河村文雄、安田裕典、竹山金伍、藤井芳宏

高柳氏の司会で調印式が行われました。



左から宇佐見主幹、小林局長・樋口次長・夏目課長

発生が懸念されている南海トラフの巨大地震、伊勢湾台風並みの台風等による大規模災害に備えて、愛知県の地域防災力を高めるため、連携を図りながら協力して防災啓発活動に取り組むため、それに関する覚書を締結する。

以下覚書の内容です。

防災啓発活動に関する覚書

愛知県防災局（以下「甲」という。）とあいち防災リーダー会（以下「乙」という。）は、発生が懸念されている南海トラフの巨大地震、伊勢湾台風並みの台風等による大規模災害に備えて、愛知県の地域防災力を高めるため、連携を図りながら協力して防災啓発活動に取り組むこととし、次のとおり覚書を締結する。

（目的）

第1条 この覚書は、甲及び乙が実施する防災啓発活動について、相互に連携を図りながら協力して行い、その活動を効果的に推進することにより、県民の防災意識を高め、地域防災力の向上に資することを目的とする。

（協働実施）

第2条 甲及び乙は、次の防災啓発活動について、協働して実施するものとする。

- (1) 防災知識等の普及啓発を図るための講座、研修会、講演会等の開催
- (2) 防災知識等の普及啓発を図るための冊子、リーフレット等の作成、配布
- (3) その他協働実施により効果的な推進を図ることが期待できる防災啓発活動
- (3) その他協働実施により効果的な推進を図ることが期待できる防災啓発活動

2 甲及び乙は、協働実施する活動、実施方法、役割分担等について、相互に協議、調整し、円滑な実施に努めるものとする。

（協力要請）

第3条 甲又は乙に対して、市町村、自主防災組織、学校、企業、各種団体等から、防災啓発活動について協力依頼があった場合、必要に応じてそれぞれから協力を要請することができるものとする。

(意見交換等)

第4条 甲及び乙は、防災啓発活動の効果的な推進を図るため、随時、情報交換、意見交換等を行うものとする。

(有効期間)

第5条 この覚書の有効期間は、覚書締結の日から1年間とする。ただし、覚書の有効期間が満了する日の1月前までに、甲又は乙から特段の意思表示がないときは、有効期間をさらに1年間延長するものとし、その後も同様とする。

(その他)

第6条 この覚書に定めのない事項については、その都度、甲及び乙が協議して定めるものとする。

この覚書の締結を証するため、本書2通を作成し、甲及び乙が記名押印の上、各自1通を保有する。

平成24年6月7日

甲 愛知県防災局

局長 小林 壮 行

乙 あいち防災リーダー会

会長 早 川 澄 男

調印式を終え記念写真です。

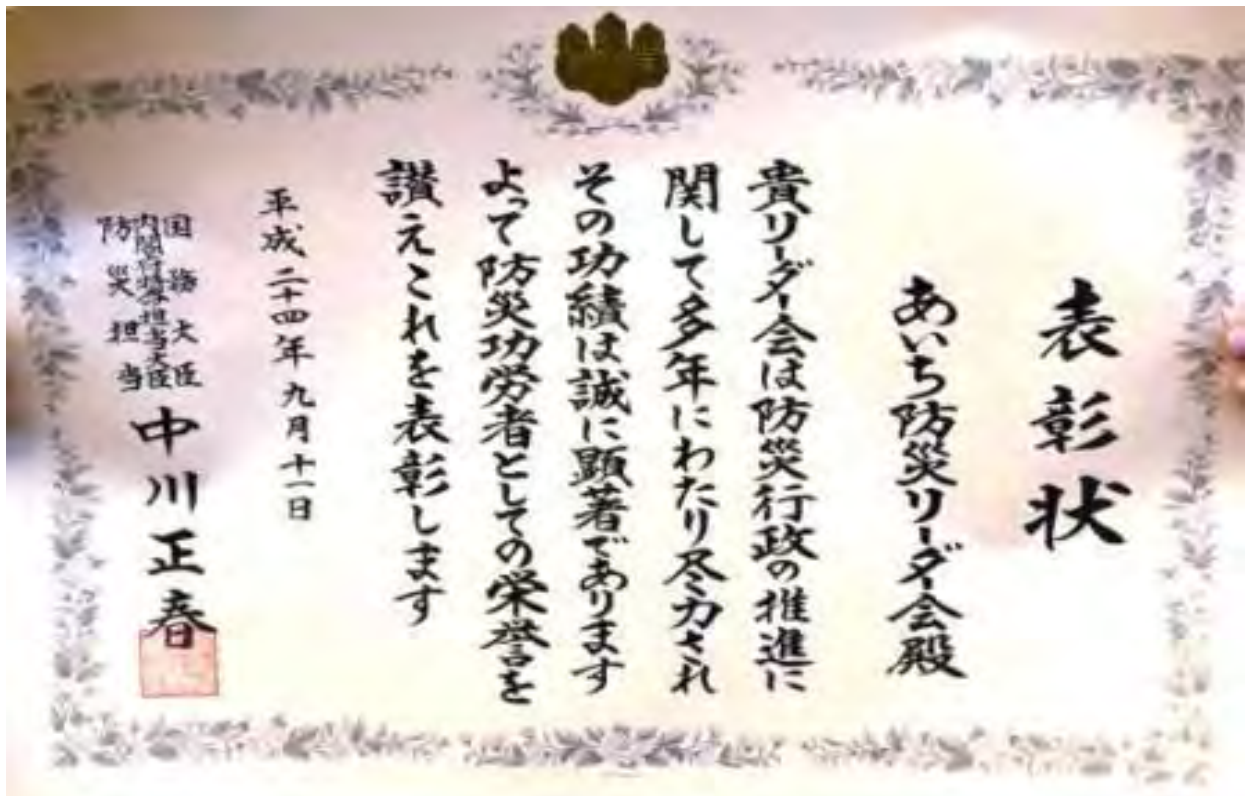


大村知事との面談後の記念写真



(7) 平成 24 年度防災担当大臣表彰

団体：あいち防災リーダー会



表彰式は東日本大震災から1年半目の平成24年9月11日13:30～より東京のホテルオーク半蔵門で行われました。表彰者は10個人、8団体

選考理由は愛知県の地域防災力の向上に多大な貢献をした。愛知県が主催するイベントでの防災啓発や防災セミナー等への講師派遣など防災行政にも積極的に協力するなど防災思想の普及に多大な貢献をした。



この賞は、現在677名の会員のみならず、この10年間にご参加ご支援いただいた方々全員の賞であります。

今一度ボランティア精神に立ち返り、地域防災力向上のため防災・減災活動に邁進したく、今後とも会員相互啓発、連携と協力を持って進めることを切望します。(会長早川澄男)

(8) 平成25年度ボランティア活動功労者表彰を受賞致しました。

昨年の防災担当大臣表彰に続き、今年は愛知県の表彰を受賞いたしました。10年以上に渡りボランティア活動を行っているもので、個人にあっては年12回以上、団体にあっては月1回以上のボランティア活動を行い、顕著な事績を収めたものに授与される。

早川会長 藤井広報部長 2名出席

表彰式は8月29日（水）午前11時より

県庁本庁舎 2階 講堂で開催された。

受賞者個人16人・36団体

大村知事から各受賞者に表彰状及び記念品が授与されました。



知事挨拶

前半手話を交えながら「受賞おめでとうございます。皆様が前向きに献身的に活動されている姿に心から敬意を表し、感謝致します。地域における住



民の結びつき、家族の結びつきが希薄になっている昨今、生活に密着したボランティア活動はとても重要で、欠かすこと

は出来ません、愛知県では愛知万博から多くのボランティアに活躍して頂いています。トリエンナーレ2013には1300人のボランティアが会場運営をします。

愛知県としても支援をいたしますので、さらなるご協力をお願いし、皆様のご活躍とご健康を祈念致します」



この後にも来賓代表の県議会議長の挨拶がありました。「受賞の祝福と日頃の皆様のボランティア活動に心より感謝致します・・・・」内容は知事と同じようなので省略させて頂きました。

早川会長談話

10年以上にわたるあいち防災リーダー会の地域における防災・減災活動とりわけ、地域防災活動とその支援が表彰対象となりました。この受賞は、通過点であり、これからのあいち防災リーダー会の益々の活躍を期待するものでもあります、これまで以上に各位のご努力と連携により、活動される事を祈念いたします。そのためにも今まで以上に健康にご留意ください。

ありがとうございました。

(9) 活動の一部紹介

あいち防災協働社会推進大会「あいち防災フェスタ」での活動・・・モリコロパーク
ミーテング ロープワーク 記念式典



ライフガード・・・2013 啓発活動
展示と耐震相談コーナー

家具固定、耐震講座開催

ナマズンは誰？



防災・減災カレッジ

防災ゲーム「クロスロード」

HUG (避難所運営ゲーム)



消防学校 家屋倒壊現場救出訓練 見学研修会 御嵩町垂炭鉱廃坑

防災教育指導者研修会



一泊研修の旅物語

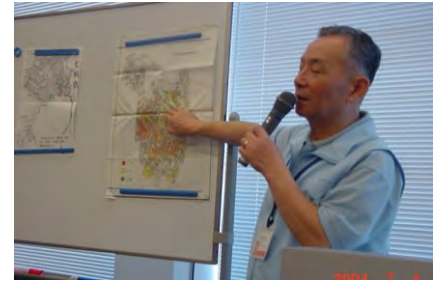
第1回 2004年 11名

阪神大震災に学ぶ…眼で確かめ、語り部さんから口承伝を
淡路震災館と神戸「人と未来センター」

北淡震災記念館 語り部片山さん＝地域コミュニティで24時間救出



人と防災未来センター



語り部北川さん「リーダー判断と指揮」

第2回 2005年 15名

根尾谷断層を観て地震防災を考えよう！
& 洪水災害から木曽三川の歴史を探る

1986年濃尾地震の震源地 6mの隆起 手前面から、背面が隆起してい

さぼろ遊学館：砂防ダム・流路工



第3回 2006年 23名

津波対策の知恵「稲村の火」と
日本縦断「中央構造線」を尋ねて

稲むらの火の広場 稲むらの火の広場(記念館は、翌年建設計画)

中央構造線：月出の露頭



津波の恐ろしさ⇒石碑：この道をにげろ！

第4回 2007年 34名

三河地震、糸魚川ー静岡構造線と中央構造線を尋ねて
 …日本列島のできる姿を考えよう！

深溝断層 段差(左と右の差) 静岡県地震防災センター 大鹿村中央構造線博物館



第5回 2008年 44名

能登半島地震を振り返って 防災・減災啓発をしよう！

穴水町社協 東さんの案内

仮設住宅での七夕まつり



第5回 2009年 38名

気象台精密地震観測室見学と中越地震を観て
 防災啓発と減災活動をしよう！

山古志村長島さんと

山古志村の被災地

気象庁地震観測室



第7回 2010年 37名

国土地理院「地図と測量の科学館」&
気象庁気象科学館から防災・気象情報を学ぶ

国土地理院「地図と測量の科学館」



VLBIアンテナ



電子基準点



東京気象庁



第8回 2011年 40名

中央構造線(四国)と野島断層保存館から、学び、
防災・減災を考える

野島断層保存館



中央構造線（四国）



中央構造線 四国……紀伊半島……豊川……長野……諏訪



第9回 2012年 40名

**東日本大震災から液状化を学び、南海トラフの巨大地震を考える
& 立川防災館で防災啓発技法を学ぶ**

千葉県浦安市

東京都消防庁本所防災館



液状化土砂の
保管山の前で記念撮影



第10回 2013年 40名

**東南海地震を振り返り（稲村の火の館・津波防災センター）
南海トラフの巨大地震への備えを考える**

三重大川口先生を囲んでの防災づくりの2日間



安政南海地震1854年11月5日



稲むらの火の館



広村堤防



錦津波避難タワー



第1タワー
第2タワー
川口先生と

防災談議



東日本大震災から3年1カ月過ぎました、改めて犠牲になられた多くの皆様のご冥福を心からお祈り申し上げますと共に、被災された多くの皆様に心よりお見舞い申し上げます。今後も自分で出来る支援をして行きたいと思っています。

豪雪の被害も出た厳しい冬から過ごしやすい春が巡ってきました。

皆様にはお元気に地域の活動に邁進されている事と思います、日頃はあいち防災リーダー会に絶大なるご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

昨年総会に10周年の記念誌を発行しますとお伝えしましたが、なかなか原稿が集まらず、途中仕事が忙しい事を言い訳に頓挫したり、紆余曲折、又私広報部長の力量の無さを痛感しながら、困って早川会長に相談をしたら「そんな立派な10年誌を作ろうとせずとも増刊号の発刊を積み上げればというアドバイスをいただきました。少し気楽に完成して行けばいいと理解し、シンプルな「10年間の歩み」として増刊号を発刊させて頂きました。記事の多くも会長に提供して頂きました。

あいち防災リーダー会の10年の間には、会長の挨拶にもありましたが愛知県防災局との防災啓発活動に関する覚書の調印がされました、その後の大村知事との面談では「県のイベント会場でリーダー会のブースをよく見かけるので知っていますよ」と云われ嬉しく思いました。同じ24年には防災担当大臣の表彰、翌年には愛知県ボランティア活動功労者表彰と栄えある受賞をし、リーダー会の会員数も700名と大きく知名度も高くなりました。

今のあいち防災リーダー会があるのは、ひとえに歴代会長はじめリーダー会創立からの諸先輩方、会員の皆様の並々ならぬ努力と地域での地道な活動に他ならないと感じ、改めて敬意を表しますと共にリーダー会の礎を築いて下さった諸先輩方に感謝いたします。ここまでメジャーになったあいち防災リーダー会をより一層切磋琢磨し会員一人ひとりが継承し、活動して行かねばならないと痛感しております。

何年前かに永平寺を訊ねた折、道元禅師のメッセージがありその一節が今でも心に残っています。

人生に定年はない 安身立命(あんじんいりゅうみょう)

人生に定年はありません 老後も 余生もないのです

死をむかえる その一瞬までは 人生の現役です

人生の現役とは

自らの人生を悔いなく生き切る人のことです

そこには「老い」や「死」への恐れはなく

「尊く美しい老い」と「安らかな死」があるばかりです

この道元禅師のメッセージのように生涯現役を目指したいと思っています。リーダー会の皆様も私と同世代から目上の先輩も多くいらっしゃるので、どうか生涯現役を目指して活動して頂きたいとこのメッセージを紹介しました。

記念誌発刊のご協力ありがとうございました。

結びにあいち防災リーダー会の今後益々のご発展と皆様のご活躍とご健康を心より祈念致します。



ランの館にて・・・・・・・・

発 行	あいち防災リーダー会
発 行 日	平成26年4月14日
発行責任者	早川 澄男
編集責任者	藤井 芳宏